

割の変化はなかつたようである。

## 福井・福井城跡(1)

1 所在地 福井市大手一丁目

2 調査期間 一九九八年(平10)六月~九月

3 発掘機関 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

4 調査担当者 河村健史

5 遺跡の種類 城郭跡(武家屋敷地)

6 遺跡の年代 江戸時代、近代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査は、一九九六年度からの継続事業であるJR福井駅付近の連続立体交差事業、およびその側道の改良工事に伴うものである。今

回報告する木簡などが出土

した地点は、九七年度調査

地(本誌第二〇号)の南西

に位置する。調査地は、江

戸時代は福井城の東方にあ

たり、数多く残る絵図類に

よれば、堀・北人分門・武

家屋敷地であったことがわ  
かり、江戸時代を通じて地

堀の石垣、砂利敷舗装道路、屋敷地内の石組み井戸・上水道施設(竹管など)や土坑・園地とみられる遺構が検出されたが、全体的に遺構の遺存状態は悪かつた。遺構の多くは主に江戸時代後半と考えられるが、石組み井戸のように一七世紀のものも見られる。今回検出された屋敷地は門跡より低い場所に位置するため、近代に入つてから、大量の近代の遺物とともに全面に厚く盛土がなされていたが、この盛土内より「武田耕雲斎之死塚」などと墨書きされた小石が出土している。

木簡は石組み井戸九〇七、堀と直交する溝九〇六、堀及び整地土中から出土した。その他、肥前産の食器類や越前産の調理・貯蔵具など生活に関する焼物類や、暖房器具の行火<sup>あんか</sup>であるバンドコなどの石製品、漆塗り椀や下駄・箸などの木製品が出土している。

8 木簡の釈文・内容

井戸九〇七

(1) 「□ □」

溝九〇六

(2) 「□」

86×(22)×1 081

84×(21)×2 019

堀



(福井)

1998年出土の木簡

(3)

拾  
□三  
X  
カ

整地土

(73) ? X (354) X 6 081

(4)

- 「公園新地境界」
- 「[私カ] □公園新地敷地」

表(イ)第三号 国

土ヲ取りタルモノニハ

」

」

」

」

- 「明治三十五年七月之立□」

□(イ)第三号 地所

236×26×23 061

(5)

- 「公園[新地境界カ]」
- 「[明治カ] □三十□年□月立之」
- 「公園新地境界」
- 「公園新地敷地」

141×23×19 061

(6)

- 「□井 ハマ ⑧
- 「□通運 御中」

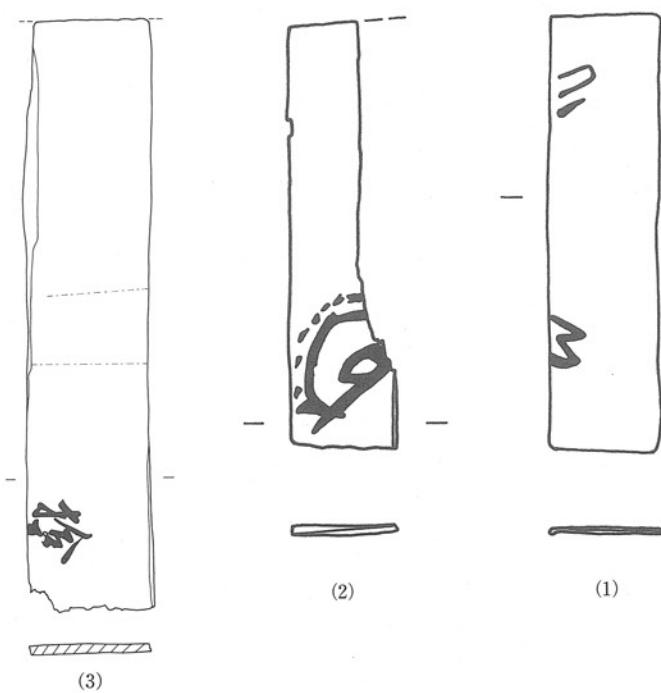
170×38×13 011

(1)は石組み井戸廃絶時の埋戻し土内から、一七世紀後半の陶磁器とともに出土した。(2)は共伴遺物から一九世紀と考えられる。(1)(2)



「武田耕雲斎之死塚」石 (縦6.8cm、横6.2cm)

とも何らかの記号かと考えられる。(3)は堀の堆積土内より出土している。共伴遺物は幕末～明治期のものである。(4)～(6)および「武田耕雲斎之死塚」石は、先述のとおり、明治期の整地土内に混じり込んだ状態で検出された。(4)(5)は公園の境界杭である。



なお釈文は、福井県立博物館笠松雅弘氏、山形裕之氏のご教示を得た。

9 関係文献  
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター『第一四回発掘調査報告会資料』（一九九九年）  
（本多達哉・河村健史）



(6)